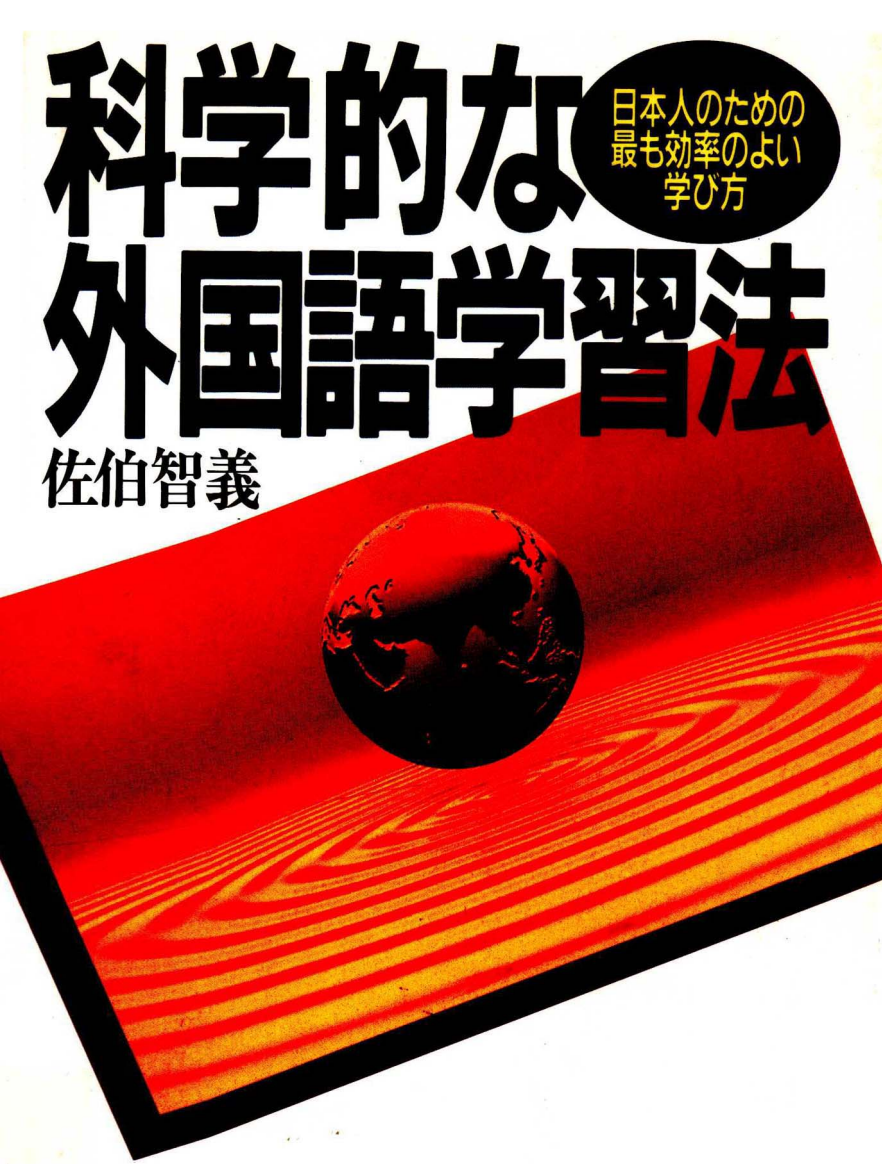
科学的な外国語学習法

日本人のための
最も効率のよい
学び方

佐伯智義



講談社

科学的な外国語学習法

日本人のための最も効率のよい学び方

佐伯智義

講談社

科学的な外国語学習法
日本人のための最も効率のよい学び方

1992年1月20日　第1刷発行
1998年3月20日　第10刷発行

著　者　佐伯智義
発行者　野間佐和子
発行所　株式会社 講談社
東京都文京区音羽2—12—21　郵便番号112－8001
電話　編集部（03）3943－2612
販売部（03）5395－3624
製作部（03）5395－3615
印刷所　廣済堂印刷株式会社
製本所　牧製本印刷株式会社
定価はカバーに表示してあります。

落丁本・乱丁本は小社書籍製作部あてにお送りください。
送料は小社負担にてお取替えいたします。なお、この本についてのお問合わせは、学術局あてにお願いいたします。
©Tomoyoshi Saeki 1992. Printed in Japan
本書の無断複写（コピー）は著作権法上での例外を除き禁じられています。

ISBN4-06-205658-5　（術図）

科学的な外国語学習法

日本人のための最も効率のよい学び方

目　次

初　め　に――――――――――――――――――――――――――10

第1章　外国語学習は，神経回路の再組織化――17

外国語学習とは，何をすることか？　18
学習とは，2つ，または，それ以上のニューロン
（神経細胞）を結びつける鎖を作ることである　19
どのようにして神経回路は出来上がるか？　19
記憶の定着には反復刺激が必要　20
神経細胞には先験的記憶がある　21
作られなければならない神経回路の数と種類は？　22
日本人の脳と外国人の脳　24

第2章　日本人が外国語を苦手としている理由――27

日本人の外国語の実力は？　28
なぜ日本人の成績は良くないか？　29
外国語習得を左右する3つの要因　30

I．母国語と学習言語の性格――30

A）TOEFL 成績表の分析　30
B）日本語とヨーロッパの言語の性格の相違　33
C）外国語に対する母国語の干渉　45

II．メソード（学習法）――52

メソードとは何か？　52
なぜメソードが必要か？　53
日本人のためのメソードが必要　56

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook

III. 学習者の性格——57

性格が外国語習得の可否を決める　57
外国語習得を妨げる恥の文化　57
恥をかこう　58
日本人の閉鎖性　58
外国語学習には“外国が好き”の感情が必要　59

第3章　外国語学習15の間違い——61

〈間違い・その1〉“発音なぞどうでもよい”　62
〈間違い・その2〉目に頼る勉強法　66
〈間違い・その3〉諸悪の根源；英文和訳，和文英訳　69
〈間違い・その4〉“英語なんて簡単，
単語を並べさえすればよい”　76
〈間違い・その5〉“表現を覚えさえすれば，
外国語は話せる”　80
〈間違い・その6〉“外国語は暗記物”　81
〈間違い・その7〉“文法を考えるから，
会話ができない”　84
〈間違い・その8〉“文法を全部，習ってからでないと，
会話の勉強は始められない”　86
〈間違い・その9〉“辞書は何回でも引け！”　88
〈間違い・その10〉多すぎる教材，早すぎる進み方　91
〈間違い・その11〉読み，文法，作文をそれぞれ
異なる先生が教える　94
〈間違い・その12〉“外国語がうまくなりたかったら，
日本語をもっと勉強しろ”　95
〈間違い・その13〉“外国語学習は，テクニックの習得”　98

〈間違い・その14〉中学から始まる英語教育，
これでは遅すぎる　100
〈間違い・その15〉“外国語マスターの鍵は，頭の良さ”　102
結論　104

第4章　効率の良い科学的メソード ―――――― 109

I．発音を学ぶ ―― 110

1．まずテープだけを買う　111
2．テープを毎日，必ず聞く　112
3．テープを編集し直す　113
4．ただ聞くだけでなく，
自分でもテープと一緒に唱える　114
5．発音練習を徹底的にやる　114
6．発音記号を学ぶ　116

II．論理的に考える ―― 117

A）品詞を考える　121

1．名詞　121　2．冠詞　125　3．代名詞　134
4．形容詞　142　5．動詞　146　6．前置詞　153
7．副詞　156　8．接続詞　158

B）機能を考える　160

文の構造　161
機能　162
機能1：主語　166
機能2：直接目的語　168

機能 3 ：間接目的語　170
機能 4 ：名詞補語　173
機能 5 ：形容詞の機能　174
機能 6 ：形容詞補語　174
機能 7 ：状況補語　176

C）文の構造を考える　179

1. 主語＋BE 動詞＋名詞（代名詞）　180
2. 主語＋BE 動詞＋形容詞　181
3. 主語＋自動詞　181
4. 主語＋他動詞＋直接目的語（対格目的語）　182
5. 主語＋他動詞＋間接目的語＋直接目的語　182
文の組み立て方　185

D）分析の実例　188

E）読み方　195

第5章　勉強の仕方についてのアドバイス――201

I．テープ・レコーダーを最大限に利用する――202

a）どのようなテープが良いか？　203
b）既製のテープを編集し直す　205
c）気が狂うほど，テープを聞く　205
d）文法の規則を考慮して外国語を聞く　206

II．単語の覚え方――207

a）単語は文章の中で覚える　207

b）単語の意味は，日本語ではなく，
学習言語で覚える　208
c）派生語，反意語も覚える　209
d）ボキャブラリーは，どれだけ必要か？　211
e）正確な発音で単語を覚える　212
f）物を指さして単語を覚える　213
g）ジェスチャーをして単語を覚える　213

III. 練習問題を数多くやる ―― 214

a）同じ練習問題を何回もやる　214
b）練習問題は，声に出してやる　215

IV. できるだけしゃべる ―― 215

a）外国人教師による3つのアドバイス　215
b）外国語は，話すことによって進歩する　216
c）外国語学習のスタート時から，外国語を話す　217
d）外国語を話そうとする時に，日本語を口走るな！　218

V. 書き取りをやる ―― 219

a）すでに学習したテキストの書き取りをする　220
b）教科書以外のテープで書き取りをする　220
c）聞こえた文章を声に出して書く　221
d）文章を理解しながら書く　221
e）間違いのチェックを分析でやる　222
f）急いで書け　222

VI. 作文をする ―― 223

a）教科書のテキストを利用しよう　224
b）すでに習った単語や表現を書き出して，利用する　225

c）日本語からの翻訳をやってはならない　226
d）書けないことは，書かない　226
e）ネイティブ・スピーカーの生徒が使う
　　作文の教科書（参考書）を利用する　227
f）自分が書いた文章を分析してみよう　228

Ⅶ．文法は日本語ではなく，学習言語で覚える —— 229

Ⅷ．勉強の手順 —— 232

a）教科書を見ずに，テープを何十回も聞く　232
b）辞書を引かずに，テキストを音読し，
　　その内容を探ろう　233
c）品詞と機能をチェックする　234
d）同じ練習問題を何回もやる　234
e）書き取りをやる　235
f）テキストを朗読して，テープに吹き込んでみる　235
g）予習は完璧にやる　235

Ⅸ．外国語が話せるようになる勉強法 —— 236

a）何よりも発音練習が必要　237
b）テープを毎日，聞く　238
c）文の構造を考えて話す　238
d）相手の言葉を繰り返し唱え，
　　相手の言葉を利用して話す　239
e）言えないことは，言わない　241
f）頭の柔軟性が必要　242
g）テレビ，ラジオを大いに利用しよう　243
h）とにかく外国語を話そう　245

第6章　留学は絶対に必要 ―――――――――― 247

I．留学はなぜ必要か？ ―― 248

a）異境の風土の中に身を置く　248
b）外国で生活をする　250
c）カルチャー・ショックを受ける　250
d）政治，社会問題に無関心ではいられなくなる　251
e）日本について勉強する　252
f）日本を外から眺められる　254
g）日本での教育と異なる教育を受けられる　255

II．留学という特効薬が効かない人もいる ―― 259

a）心を閉ざしている　260
b）パーティや修学旅行が嫌い　260
c）趣味を持たない　260
d）日本食しか食べられない　261
e）郷に入っても，郷に従わない　262
f）あくまでも日本語にこだわる　263

III．いつ留学するのか？ ―― 264

a）早ければ早いほど良い　264
b）12歳以前に留学すれば，
　　ネイティブ・スピーカーになれる　265
c）子供の適応能力はすばらしい　265
d）大学入学以前と以後でも，大きな違いが出る　265
e）大学1年で，英語の短期留学をしよう　266
f）1度しか留学できなければ，大学2,3年で

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook

短期留学をする　267
g）留学前の海外旅行は，留学の準備となる　267
h）外国語会話の必要にせまられた人の
外国語学習はうまくいかない　268
i）海外勤務の人事は，
4年前に決定すべきである　268
j）大学生は，留学して，在学中に最低1つの
外国語を物にしよう　269
k）家庭の主婦なら，2週間でも留学しよう　270

終わりに――――――――――――――――――――――――271

良い学校，良い先生　272
外国語上達に関する法則　275
心を広げるトレーニング　279

装幀・鈴木邦治

初　め　に

なぜこの本が書かれたか

「この人，英語の授業に2年も出席していないんです．授業に出るように言って下さい」スキー場のペンションで知りあった若いカップルの女性から，そう頼まれた．私は，いつも学生に「風邪を引いた位で，学校を休むな！　少なくとも，おれの授業には，はってでも出てこい！」とはっぱをかけているので，びっくりして「英語の単位を取らなければ，卒業できないじゃないか．なぜ出席しない？」と尋ねた．すると，彼にもちゃんとした言い分のあることが分かった．東京の有名大学に入った彼は，1年生の時「僕は，大学の4年間で，英語を話せるようになりたいのです．ですから，そのような授業をお願いします」と，英語の先生方に頼んだそうだ．ところが，どの先生も，彼の要望に応えてくれない．2年目も同じお願いをしたが，またもや，彼の要望は無視されてしまった．そこで，頭にきた彼は，その年も英語の授業をボイコット．

世間の人は，英語教師であれば，誰でも英語を話せる，と信じている．だからこそ，自分の要望に，英語を話せない先生が当惑するとは夢にも思わず，この学生は無理難題を先生に吹っ掛けたのだ．

時代が要求する教育に，教師の養成のあり方が適していない，という事情は，なにも日本だけのことではない．外国に来て，その国の言葉を勉強している各国学生に聞くと「自分の国の学校教

育では，外国語を話せるようにはなれない．先生が話せないのだから」と，不満をもらす外国人が結構いるのである．

自分が教えている外国語を話せない日本人教師の弱点を補うのがネイティブ・スピーカーの教師なのだが，それもうまく機能していない．その原因は，教師の質と教え方にあるのだ．

最近ようやく問題となってきたが，英語を母国語とする外国人であれば，誰でも英語の先生になれる，という日本の現状は全くおかしいのである．発音になまりがあったり，文法の質問に答えられないなど，自分自身が学生時代，母国語の成績が悪かった，と思われる外国人を，教師として日本の学校は雇っている．

これらの先生は，母国語の教え方を知らないし，ましてや，日本人の頭脳が欧米人と異なることなぞ知るよしもない．したがって，学校は，これらの素人を教師とするための教育をしなければいけないのに「教え方は，それぞれの先生にまかせています」という無責任な経営者もいるので，有名語学学校であろうと，良い先生につけるかどうか？は，宝くじのように予測できない．不幸にして，教え方の下手な先生のクラスに入ってしまうと，努力の割りにはうまくなれないし，進歩しなければ，勉強は面白くない．そこで，やっぱり自分には語学の才能がないのか，と責任は自分にあるとして，外国語の習得をあきらめてしまう．これでは，余りにもかわいそうではないか，と教師の１人として思うのである．

語学教育の成果が上がらないのは，教える側に多大な責任があるのだが，学生側にも責任がある．

語学教育で有名なある一流大学の学生が「１年間，英語の発音練習ばかりさせられた．これじゃちっとも面白くない！」と不満をもらしていた．しかし，現在，発音練習を１年間みっちりとやってくれる大学が，どこにあるのだろう？　語学は，発音から始

まるのであって，発音の良し悪しが外国語上達を左右するのに，発音練習に文句をつけるなぞ，まさに「親の心，子知らず」である．

これも一流大学の学生だが，彼の話によれば，彼の先生はなかなか良い教師らしい．実力はあるし，教え方もうまい．ところが，中学，高校でやってきた古典的な英文和訳，和文英訳のような授業ではないので，学生達には違和感がある．だから，もっと気安く単位が取れる他の先生のクラスに，多くの学生が移ってしまう，というのだ．

以上の例のように，学生達は，どのような授業が良いのか，どのような教え方をする教師が良いのかを知らず，外国語をマスターしたいと願っていながら，自分達の手で良い授業，良い教師を殺している．

そこで，良い語学授業とは，どのような授業なのか，良い語学教師とは，どのような教師なのか，を学生達に教えてあげたい．そのような先生に出会えたら，最初はアレルギーが起ころうと，必死になって，授業についていかなければならない．

しかし，不幸にして，良い教師に出会えなければ「自分でやるっきゃない！」のである．私自身，勉強の仕方（メソード）が悪かったために，外国語学習で苦労した経験を持っているので，そのような学習者に，何を勉強しなければならないか？　どのような勉強方法（メソード）で勉強すべきか？　を教えてあげたい．

かつての同僚に，語学の天才がいた．独学で幾つもの外国語を物にしてしまうのである．その天才がわれわれ凡才に「君達は学校に行って外国語を習おうとするから，駄目なんだ」と忠告してくれた．外国語は，話さなければ，うまくならないから，独学には無理があるのだが，彼の言わんとするところは「外国語は，先

生に習うだけでは物にならない．先生をあてにせず，独学するつもりで，自分から積極的に勉強しなさい」ということなのだ．たとえば，書き取りを授業でやってくれなければ，テープ・レコーダーを利用して，１人で書き取りをやってみる．作文の宿題が出なくとも，自発的に文章を書いて，ネイティブ・スピーカーに直してもらう．前記の学生のように，「先生がやってくれないから‥‥」とグチをこぼすだけでは，自分が損をするだけである．

私は教師であると共に，現在も外国語を勉強している学生でもある．したがって，どのような教師が良いか，習う方の立場からの意見も持っている．また，国際社会で働いていた経験からして，将来，仕事で外国語を使う場合を想定して，語学の授業はどうあるべきか，についても少なからず意見を持っている．したがって，本書で述べられている学習法（メソード）は，象牙の塔にこもったものではなく，現実に即したものであり，国の内外で外国人と接触しなければならない人には，特に有益である，と信じている．

外国人の中には，日本人に母国語を教えることの難しさを痛感し，どのような教え方をすれば良いのか？と悩んでいる教師もいる．そのような先生には，ぜひとも本書を読んでいただきたい．日本人が，外国語にうまくなれない原因は何か？　日本人の脳は外国人の脳となぜ異なるのか？　外国語の習得を妨げる日本人の性格はどのようなものか？　日本人に何を，どのように教えなければならないか？を本書で知ることができるからである．

実社会で働いたことがない学生の中には，今，学校で勉強している学問が，将来，何の役に立つのか？と疑問を抱いている人もいることだろう．しかし，どの学問もすべて有用であり，ましてや急速に国際化が拡大し，都会だけではなく，農村にも外国人が居住し，職場や学校にも同僚や学友として外国人がおり，海外へ

の日本企業の進出では，現地の人達と共に働き，生活しなければならない現在，外国語の学習は，日本人にとって，必須となったのである．今，外国人と接触がない人でも，明日，外国人と話をしなければならない羽目に陥ることが絶対にないと，誰が断言できるだろう．

外国語学習の意義は，単にコミュニケーションの道具としての言葉を学ぶ，ということだけではなく，思考の幅を広げることにもあるのだ．それは，つまり，外国語を勉強することによって，自分達と異なる文化を持つ人達を理解できるようになり，見逃しがちなことだが，外国人に自分達を理解させる努力を，私達がしなければならないことに気づくのである．したがって，外国語学習の意義と必要性を認識し，本書に書いてある“効率の良い勉強法”で学び，ぜひとも外国語を習得していただきたい，と私は心から願っている．

本書のタイトルは“科学的な外国語学習法”となっているが，地球上にある約2800の言語のすべての言語学習にふれることはできない．ここでは，ゲルマン語派の英語とドイツ語，イタリック語派からフランス語を学習の対象として取り上げた．しかし，ここに書かれた内容は，他の言語の学習にも有益である．なぜなら「母国語の学習とは異なり，外国語の性格をふまえた学習方法によって勉強しなければ，外国語の習得は不可能だ」ということを知って欲しい，というのが，本書の目的の1つであるからだ．

さて，英語は，ゲルマン語派であっても，1066年のフランス・ノルマンディ公ウィリアムによるイングランド征服と，その後，300年にわたるフランス語による統治によって，英語の語彙の半分以上がフランス語，またはフランス語経由のラテン語となり，文法もゲルマン語派の特徴をかなり失ってしまっている．「英語の

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook